

# 視察報告書

報告者氏名:伊関 功滋

委員会名:環境教育常任委員会

期 間:令和6年10月21日(月)~23日(水)

視察都市等及び視察項目:

川崎市 環境問題をテーマに市民が学べる施設について

泉大津市 体育館の空調設備について

北九州市 教職員の勤務時間管理の徹底による業務改善について

所 感 等:

## ◆川崎市

人口 1,551,788 人(令和6年10月1日現在)

世帯数:784,086 世帯

面積 144.35k m<sup>2</sup>

市制施行:大正13年7月1日

## ◆川崎市 環境問題をテーマに市民が学べる施設について

今回、環境教育の観点から王禅寺エコ暮らし環境館を視察した。この施設は、王禅寺処理センターと王禅寺処理センター資源化処理施設が一体となっていて、多くの児童生徒の社会科見学として活用されている。本市の横須賀ごみ処理施設「エコミル」とリサイクルプラザ「アイクル」が一体的に運用されているような体制である。



川崎市の場合、2施設のほかにさらに王禅寺エコ暮らし環境館が併設され、多くの市民が訪問をされている。本市にはこの部分が足りていない状況となっている。

さて今回、現地視察をさせていただき、一番感心したのは臭いがしなかったことである。本市の施設では、完全に無臭にするのは難しいと聞いていたが、対策ができるのではないかと思った。

川崎市は、本市の 1.5 倍の敷地面積で横に長い地形であり、市内に4か所の処理場体制でゴミ処理を行っている。横に長いため、JR貨物の路線を活用して、ゴミの運搬を行っていた。これらのごみ行政の在り方は、子どもたちに非常に分かりやすく興味を持っていただいている。



王禅寺エコ暮らし環境館は資源循環や温暖化対策、自然共生について楽しく学ぶことができる施設で、それほど大きくはないが、体験型のアトラクションが設置され、体験しながら環境について学ぶことができる。本市では同じ施設の建設はできないが、「エコミル」と「アイクル」の空きスペースを活用し、簡単な体験型のアトラクションを整備しても良いのではないかと感じた。

今後も、環境教育は大変重要で、子どもたちだけではなく、大人にとっても大切な考え方で、それぞれに対して啓発活動を進めていきたい。

#### ◆泉大津市

人口: 72,770 人(令和 6 年 9 月 1 日現在)

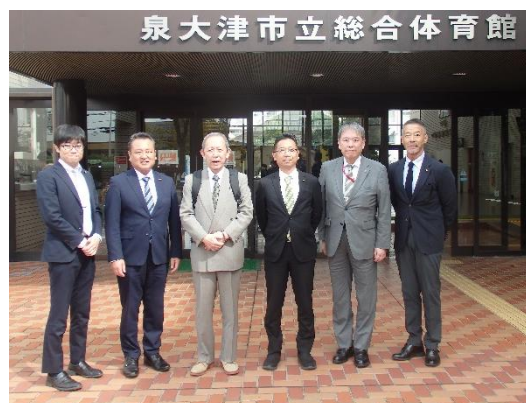
世帯数: 35,652 世帯

面積: 14.33 km<sup>2</sup>

市制施行: 昭和 17 年 4 月 1 日

#### ◆泉大津市 体育館の空調設備について

今回、泉大津市立総合体育館の空調設備の更新事業を視察した。今年 4 月 1 日からリニューアルオープンした施設で、まだ6か月程度しかたっていない新しい施設である。昨今の異常気象で体育館の環境管理は喫緊の課題となっており、通常時の学校の授業でも支障をきたす状況になりつつある。また、災害時には、避難所として活用することが決まっているため、避難時の環境管理にも配慮が必要となっている。空調設備の設置は、早急に検討をしなければならない。



そのような状況で、泉大津市に伺ったが、三菱重工製の「ユカリラシステム」が導入されていた。このシステムは、体育館の床には配管を設置し温度を管理する仕組み

になっている。泉大津市の場合、既に壁に断熱材が入っている様で、その分のコストは安く出来ていた。天井や壁の改修をしないで設置した例もあるようだが、ランニングコストに跳ね返るようである。またこのシステムでは、床面全体を冷暖房する仕組みで、エアコンのような風が一切起こらないもので、バドミントンなどの風の影響を受けやすい競技には大変良い設備になっている。



本市でもこのようなシステムの導入を検討していくべきと考えた。ただし、現状での設置には設置コスト・室外機の設置場所・実際の温度管理などいくつかの課題がある。しかしながら、やはり学校教育や避難所の確保からすると、早急に対応策を講ずる必要がある。

#### ◆北九州市

人口:908,109人(令和6年10月1日現在)

世帯数:439,285世帯

面積:492.5km<sup>2</sup>

市制施行:昭和38年2月10日

#### ◆北九州市 教職員の勤務時間管理の徹底による業務改善について

今回北九州市における教職員の業務改革について、説明を受けた。教職員の多忙化については、以前から言われており、在校時間の削減は喫緊の課題になっている。本市でも様々な指摘や提案を行ってきたが、結果として進ん



でいない状況にある。今までの改革の中で、教員側の問題、教育委員会の問題、地域の問題、保護者の問題など様々なファクターが絡みあっているのが実態と感じている。

北九州市の教育委員会の説明を聞いていると本市との違いについて、感じるものがあつた。

まずは、現状の把握について、本当の意味での業務分析ができていない・できていないの違いが、大きく差を出す結果に結びついている様に感じた。北九州市は、業務分

析等について民間企業の力を借りて業務改善に取り組んでいる。本市では自前でアンケートや聞き取りで分析を行っているため、現状把握がし切れていない様に感じる。

また、北九州市は政令指定都市のため、本市と違い教職員の採用は北九州市が責任をもって行っている。それでも教員に欠員が出る状況になっている。本市は、神奈川県が採用の権限を持っているため、独自色が出しにくい状況でもある。現状把握のレベルに差があり、適切な対策が打てない様にも感じる。

それから特に、地域に対しての対応の仕方に違いがあり、ハレーションを起こしているのではないかと考えた。地域に対して、現状を真摯に伝えていかないとボタンの掛け違いになっているのではないかと。北九州市のように、「できないことはできない、変えることは変える」とはっきり言っていくべきである。そうしなければ、教員が悪いように捉えられてしまう危惧を感じる。引き続き、教職員の業務改善には力を入れて行きたい。

以上

**保護者や地域の皆さまへ** ご理解とご協力をお願い

北九州市立学校では、未来を担う子どもたちに「**質の高い教育**」を提供し続けるため、学校における業務改善を推進しています。  
 今後は、令和5年2月策定の「学校における業務改善プログラム<第3版>」に基づく取組を、3か年計画で一層推進していきます。

**～具体的な取組例～**

<b>学校・保護者間連絡等のオンライン化</b>	小・中・特支学校及び幼稚園に、保護者連絡ツール「 <b>tetoru</b> （テトル）」を導入し、学校・園からの連絡やお便りの配付、また、保護者から学校への欠席や遅刻・早退連絡をオンライン化します。
<b>日課表の見直し</b>	朝の活動や清掃活動の簡素化、授業時間の短縮など、日課表の見直しを行います。見直しによって生み出された時間は、児童生徒の質の高い学びにつながるよう有効に活用します。
<b>部活動実施時間の徹底／段階的な地域移行</b>	部活動の開始及び終了時刻を明確に設定するなど、平日における実施時間（2時間程度）の徹底を図ります。また、部活動の段階的な地域移行に向けた準備を進めます。
<b>留守番電話機能の活用</b>	原則、教職員の勤務終了時刻から翌日午前8時00分の間は、留守番電話機能を活用します。 <small>※教職員の勤務時間は、原則、平日の午前8時30分から午後5時00分までです。</small>
<b>学校行事のあり方見直し</b>	各行事の経過を生かした上で、学校行事の精選（内容・準備の見直し・簡素化含む）を行います。

先生が、

- ・授業やその準備など、子どもと向き合う時間を確保し
- ・日々元気に子どもたちの前に立つとともに
- ・魅力ある学校教育を実現する

ために、皆様のご理解とご協力をお願いします。

問い合わせ先 北九州市教育委員会教職員課 電話：(093) 582-2372